

論 文 要 旨

学籍番号	81533412	氏 名	中木 裕章
論 文 題 目： 企業における探索と深化についての事例研究			
(内容の要旨) 「既存の製品・サービス・技術の品質が低いにも関わらず、事業が成功している理由は、何か」。1991年、Marchは探索(Exploration)と深化(Exploitation)の両立が必要であると主張した。ここで言う探索とは、企業の外に自社には無い新たな可能性を持つ知を探ることであり、深化とは自社が有する知や同質の知に改良を重ね、それらを深めて活用することを指す。Schumpeterは、「新結合」という組合せ概念を提唱し、新たな知は知と知の組合せとした。さらにMarchは、企業が市場に適応し繁栄を続けるには「探索と深化のバランス」が必要とした。以後、一部業界の事例検証は多数あるが、バランスの内容・パターン・必要な要因の研究は稀有である。そこで本研究は、企業の事例調査を通じて、事業が成功している理由について明らかにすることを目的とする。具体的には、組合せの数、サプライチェーンの連携、探索と深化の両方の組合せを持っていることであった。 まず、3社へのインタビュー調査の結果、探索による社外の知の組合せを確認した。そこで、組合せが多いほど業績向上に繋がるとの仮説を立て、探索と深化を7項目で定義した。そして、項目の組合せについて、既存の技術やサービスでも新規事業を立ち上げた国内外62社の創業者・社長又は責任者へのインタビュー調査結果の分析を行った。その結果、以下のことが判り、仮説と一致した。 ① 項目の組合せが多いほど事業評価値が高い。 ② 項目の組合せが少ないほど事業評価値が低い。 ③ 単一項目内のみで組合せの多くても事業評価値は低い。 ④ 62社の組合せ数と事業評価値には相関があった(相関係数0.828)。 但し、項目の組合せが多くても、探索又は深化の一方のみでは事業評価値は低く、仮説と一致しなかった。そこで、組合せには探索と深化の両項目が必要であると仮説を修正した。1項目だけで成功している企業の事例を分析したところ、仮説と一致すると共に、以下のパターンが判った。 (1) 深化の項目をベースに、探索の組合せを変えて事業を多角化した。 (2) 組合せ項目は単一でも、サプライチェーンを俯瞰した場合、企業間における深化型と探索型の組合せがあり、深化型企业は探索をする必要がなかったということが判った。			
キーワード (5語) 探索 深化 組合せ シュンペーター マーチ			